

祝 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、本日まで立派なお子様を育ててこられた保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

さて、いつもであれば卒業生の皆さんの卒業を祝福するため、たくさんの来賓の方や後輩たちが当たり前のように出席をしておりました。今年は新型コロナウイルスのおかげで、この当たり前がなくなっていました。

ここで皆さんと考えてみたいと思います。

当たりの反対の言葉は何でしょうか？

それは「ありがとう」です。もともとは有ることが難しいという意味の「ありがたし」が語源で、あるなしの「あり」に「難しい」と書きます。

あるお経の中で『人の生を（うける）うくるはかたく、やがて死すべきもの、今いのちあるは、有り難し』という一文があります。

これは今生きている私達は、数え切れない偶然と無数の先祖の計らいで、生を受けて誕生したのだから、命の尊さに感謝して精一杯生きましよう、という意味だそうです。精一杯生きていく上で、日々、親に感謝し、勉強できることに感謝し、部活をできることに感謝しながら過ごしていくと、どんどん心が豊かになっていきます。そして、心が豊かになることで、いろいろなものに興味を持つ目が増え、新たな自分の発見や可能性を見出すことができ、これからの高校生活は、間違いなく充実していくことでしょう。感謝の気持ちを忘れずに、無限の可能性を秘めた皆さんの活躍、楽しみにしております。

次に、保護者の皆様、日頃よりPTA活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

3年前、小学校を卒業し、そのすぐ後には大きく作った制服を身にまとい、迎えた中学校の入学式。自分の目線よりはるか下だった子供たちが、今や自分と同じ目線、いやそれどころか、見上げるくらいに立派に育った姿を見ると、これまでの様々な苦労を忘れて、喜びに変わることと思います。そして、自らの足で歩み出すたくましい姿を想像すると、今後の成長がとても楽しみな反面、少しずつ親から離れていくちょっと寂しい部分もあると思います。これからも、ご家族の絆を大切にお過ごしいただければと願っております。あらためまして、お子様のご卒業おめでとうございます。（後略）

令和2年3月13日

郡山市立富田中学校父母と教師の会会長 星 公仁宏

